

議会だより とのしよ



元気にいきましょ！
土庄町



出初式会場で息のあつた演奏 ～土庄小学校トランペット鼓隊～

12月定例会のあらまし	2-3
平成28年度決算を認定	4-5
委員会の活動報告	6-8
議員の活動状況	9
一般質問（6人の議員が町政を問う）	10-13
まちの元気印（土庄町立中央図書館友の会）	14

遊歩道の再生

12月定例会は12月1日に開会し、12月4日に閉会しました。
 補正予算5件、条例5件、その他2件、議員発議2件が提出され、全議案及び9月定例会で決算特別委員会に付託されていた平成28年度各会計決算認定を可決しました。
 一般質問では、6人の議員が町政について質問を行いました。

補正予算の主な内容

公共土木災害復旧費
 台風18号・21号災害復旧工事



799万円

2,260万円

農林水産業施設災害復旧費
 台風18号・21号災害復旧工事



体育施設費
 野外活動センターの施設修繕



307万円

300万円

観光費
 皇踏山遊歩道の修繕



補正予算に対する討論

平成29年度一般会計補正予算

反対 福本議員

社会保障・税番号システム整備事業についての予算について、マイナンバー制度そのものに反対する立場から反対する。

賛成 山崎議員

マイナンバーは国の施策であるため賛成する。

主な条例の一部改正

◇防災行政無線の設置及び管理運用に関する条例
 四海公民館建設工事に伴い、遠隔制御局の設置場所を変更する。

◇公民館設置条例

四海公民館建設工事に伴い、旧四海小学校を四海公民館の仮事務所として使用する。

◇町営住宅管理条例

公営住宅法が改正され、認知症患者等である入居者の収入申告義務が緩和される。

◇景観条例

再生可能エネルギーの利用促進と町の良好な景観形成との整合を図ることを目的とし、新たに一定規模以上の太陽光発電設備等を届出対象行為の「工作物」に加える。

◇水道事業の廃止に伴う関係条例

水道事業が香川県広域水道企業団に統合され、廃止されることに伴い、関係条例の一部改正、廃止をする。

条例案に対する討論

土庄町水道事業の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例

反対 福本議員

水道広域化を進める条例であるので反対する。

賛成 濱野議員

水道広域化は、土庄町にとっては安定的、継続的に水道事業を行うために必要不可欠であるので賛成する。

議員発議

◇道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書

提出者 濱野 良一議員
 賛成者 川本 貴也議員
 山崎 勝義議員

道路整備事業に係る国の特別措置に関する法律で規定された高上げ措置が平成29年度末で期限を迎えるため、道路整備に係る国庫補助率の高上げ措置の継続を要望する。

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣に提出

◇議会会議規則の一部改正

提出者 川本 貴也議員
 賛成者 濱野 良一議員
 山崎 勝義議員

一般質問において、町長等が議員の質問に対し、質問の趣旨及び論点の整理に関して確認することができるよう規定

活動の拠点として

野外活動センター・皇踏山

平成29年度補正予算

会計名		補正額	補正後
一般会計		1952万6千円	78億8710万円
特別会計	国民健康保険	88万8千円	23億2105万7千円
	介護保険	△516万5千円	18億6696万3千円
	福祉サービス	△112万8千円	1億280万2千円
	後期高齢者医療	42万円	2億3042万7千円

12月定例会の審議結果と賛否

議案等	結果	岡野	岡本	濱野	高橋	木場	母倉	福本	濱中	山崎	川本	佐々木	井上
平成28年度土庄町一般会計及び特別会計歳入歳出決算並びに公営企業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—
平成29年度土庄町一般会計補正予算(第4号)	可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—
平成29年度土庄町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度土庄町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度土庄町福祉サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度土庄町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町水道事業利益剰余金処分について	可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—
土庄町辺地に係る総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町防災行政無線の設置及び管理運用に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町営住宅管理条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町景観条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町水道事業の廃止に伴う関係条例の整備に関する条例	可決	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	—
土庄町公民館設置条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
土庄町議会会議規則の一部を改正する規則	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

○：賛成 ×：反対 —：議長（議長は採決に加わりません）

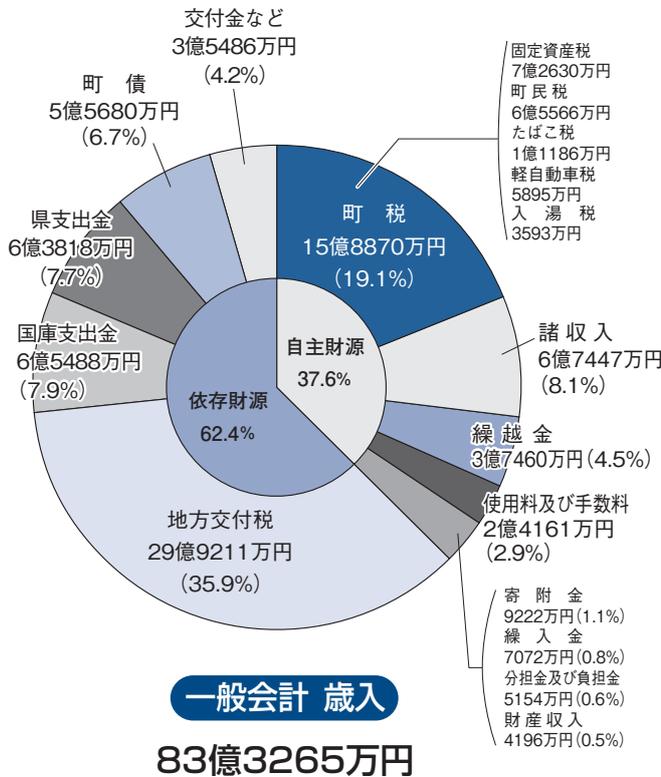
年度決算を認定

予算がどのように使われたか審査

平成28年度一般会計の決算は、歳入総額83億3265万円（前年度比10.0%減）、歳出総額78億5634万円（対前年度比9.0%減）となり、形式収支は黒字となった。

決算額減少の主な要因は、小豆島中央病院建設に伴う小豆島中央病院企業団負担金の減少等による。平成28年度は財政調整基金の取り崩しがなかったため、残高は前年度比約2億5千万円増の約25億1千万円となった。

一般会計の町債残高は、土庄中央病院の病院会計廃止に伴い、病院事業債を一般会計債へ引き継いだことにより、前年度比約3億4千万円増の約95億6千万円となった。



9月定例会で設置した決算特別委員会を10月19日から10月26日にかけて開催し、平成28年度の一般会計、特別会計、公営企業会計の決算を審査した。

委員会での主な質疑

『そうめんシンポジウムの今後の展開は』

『濱野』『そうめんシンポジウムを行ったが29年度にどう繋がったか。』

『答』2町とそうめん組合が連携して土庄港、池

田港、坂手港と高松市等において、共同でそうめんキャンペーンを行った。

『答』また詳細は未定だが、何年後かにそうめんサミットも開催予定である。

黒岩住宅の耐震性は

『岡本』黒岩住宅は、昭和40年建築で耐震等は大丈夫なのか。現在住んでいる人のことを考えないと万が一のとき大変なことになる。

『答』黒岩住宅に関して、新規の募集はしていない。最終的に住んでいる方がいなくなったら撤去する予定。

修学資金貸付事業対象者の島内就職率

『岡野』9名に貸し付けているが、どのくらい島内に戻ってきて就職しているのか。

オリーブバスの運賃箱

『岡野』オリーブバスの運賃箱の更新について、ICカードは、イルカカードだけであると思うが、観光客でJR系のICカードを持っている人

が多いと思う。導入にどれくらい予算がいるか調べてもらいたい。

『答』調べて導入について検討する。

防災行政無線の今後

『母倉』防災行政無線の受信機が、古くなり聞こえにくい家がある。今後の対応は。

『答』デジタル方式に移行するまでの間は、現在のアナログ方式で運用せざるを得ないため、故障については連絡してもらえば業者に点検、調整を依頼する。

健康診断の受診

『山崎』健康診断の受診率が低いとのことであるが、定期的に通院して、検査等している人も受けなければならないのか。

『答』毎年同じ項目で検査するので、それを見比べて健康のバロメーターとして使っていたら良い。

捕獲監視通報システム

『井上』何人の捕獲者が、何ヶ所設置したのか。

土庄中央病院の未収金

『岡野』時間が経つほど回収できなくなる可能性が高くなってくると思うので重点的にお願いしたい。

移住者の相談窓口

『濱野』相談窓口を設けて、しっかり対応できるようにしてもらいたい。

『答』県が移住者の交流会を年に1回行っている。電話等での相談もある。小豆島町にNPO法



防災行政無線

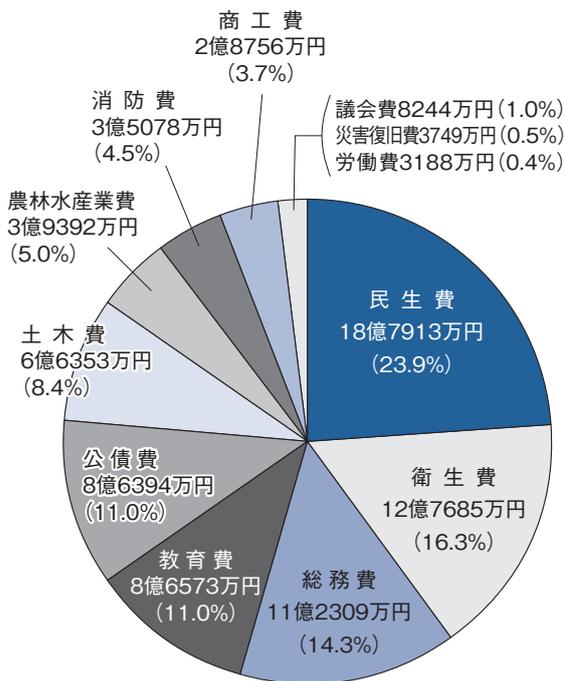
◆財政調整基金（一般会計）の残高



◆町債（一般会計）の残高



各会計の平成28



一般会計 歳出

78億5634万円

島鯉の現状
 《岡本》島鯉関連で1200万円くらいの決算額があるが、現在の状況は。
 《答》29年度で加工場のプレハブとその中に骨切り機、瞬間冷凍を導入する。30年度ミニチする機械を入れる。3年補助で



農業集落排水処理施設

農業集落排水事業の償還に何年かかるか。
 《答》償還が終わるのが、平成36年度である。残りが約8800万円ある。
 《岡野》36年度に償還して終わった時点で、施設は維持できるものなのか。
 《答》今年、長寿命化計画を作成予定で、今の施設、人口から考えて、施設規模等を検討し、将来どのくらいの費用がかかるか計画する。



島鯉加工場開所式

農業振興地域の指定
 《高橋》農業振興地域と指定された地域があるが、県が指定しているのか。また、耕作していない所も振興地域になっているか。
 《答》町が指定し、5年に1回見直しをかけている。29年度と30年度で見直す。
放課後子ども教室コーディネーター
 《濱野》子どもとの関わりではなく、運営等の事をコーディネイトするのか。また、どのような人か。
 《答》コーディネートの部分と実際に子供と接することと両方している。教員、保育士等の資格保有者を募集している。

賛成
 濱野議員
 適正に執行された決算であり、決算特別委員会においても認定すべきものとされているので賛成する。

後期高齢者医療特別会計について、制度の廃止と元の老人保健制度へと戻すことを求める立場から反対する。

国民健康保険事業特別会計について、重い国保税の負担を前提とした国保会計運営が行われており、改善を図る姿勢がないため反対する。

一般会計について、部落解放同盟への助成や特定の地域住民に対する助成などにより住民を分断し、新たな差別を生む同和対策事業に要した費用、個人情報情報の漏えいの可能性など多くの問題点があるマイナンバー制度の実施に要した費用に反対する。また、視察、出張について目的、必要性を明確にし、費用弁償は、実費支給とすべき。

反対
 福本議員
決算認定に対する討論

教育民生常任委員会
(11/13)

生涯学習課
四海公民館建設・移転

新四海公民館は、鉄骨造平屋建て、床面積は約430㎡である。事務所、大会議室、小会議室、ロビーの一部として使える読書コーナー、調理室、放課後子ども教室の部屋があり、運動場に隣接していないことから放課後子ども教室の部屋は広めのスペースをとっている。

また、現在と同じ場所へ建設するため、建設中は、仮事務所として旧四海小学校を使用する。1月4日から仮事務所で公民館業務を行う。

《木場》放課後子ども教室のスペースを大きくするとのことだが、現在子ども教室へ通っている子どもの数は。
《答》登録の人数でいうと30名弱、常時通っているのは10名程度である。

Bリーグ公式戦

プロバスケットボールリーグBリーグの公式戦開催について、島内の小・中学生の無料招待を実施する。招待の方法は、香川ファイブアローズ全選手から島内約1700名の小・中学生宛に、手書きの招待状を作り、希望者にチケットを送る。試合後の選手とのふれあいの時間も考えている。

《高橋》継続性は考えているか。

《答》球団は、年に1回やりたいとの意向を持っている。

《岡本》小・中学生に選手が招待状を書くこのことであるが、かなりの数になるが。

《答》球団から協力してくれるとの返答をもらっている。



選手からの招待状

宝生院シンパク再生事業

シンパクの根元周辺を土壌改良し、その後見学者が根元を踏み固めないように木道を設置するものである。当初計画では、木道の設置を必要最小限にとどめる計画であったが、瀬戸内国際芸術祭などをはじめとして見学者が多くなる中、木道を周回させる方が望ましいといった意見があったことなどから、事業を見直すこととなった。



宝生院シンパク

野外活動センターの運営

野外活動センターは昭和61年に整備され、現在は老朽化し、現状のまま使用することが難しい。必要最小限の修繕をし、皇踏山へのアクセスのスタート地点や野外イベント、トレイルランニングのトレーニングの場として

て幅広い年代の方々に利用してもらいたいと考えている。

《岡本》人が集まる所にはトイレが大事で、数は足りているのか。

《答》数は少ない。今の時点の改修は必要最低限にとどめている。利用者意見、利用の状況を見ながら検討していきたい。

《川本》以前の町の方針は、最終取り壊すということであった。それをも一度やろうとするので、利用頻度をあげて、有効活用してほしい。

《答》皇踏山の遊歩道の整備も考えており、併せて活用したい。また小豆島スポーツテイスとの連携も考えている。

教育総務課
就学援助に係る入学準備金

入学準備金については、29年度は4月に支給したが、県内でも3月支給が検討されており、保護者からも新入学の用品を買うのに4月に入って

からでは遅く、できるだけ早くとの要望を受けたことから、来年度は3月支給を予定している。

こども園の進捗状況

現在、旧土庄小学校の取り壊しを行っている。このまま順調に進めば、年度内には取り壊しが完了する予定である。また、実施設計についてもほぼ完了しつつある。

《川本》周辺整備の件で、NTTの辺りはどうなっているのか。

《答》NTTの事務棟については、30年度上半期に取り壊すと聞いている。取り壊す状況を見ながら整備を考えたい。

放課後活動後のスクールバス運行

徒歩の通学者が、冬場は通学路も暗くなり危険を伴うので、スクールバスを出してほしいと町PTA連絡協議会から要望があった。検討した結果、歩かせたい保護者もいるので、保護者からの申し込みにより、スクー

ルバスの運行をしようと考えている。基本的には放課後の行事により帰りが遅くなる場合のみ対応する予定である。

土庄中学校の通学かばん

通学カバンについて、PTAで1年をかけて検討していたが、来年4月からは、以前からある革のかばん、又は新たに選定した背負えるタイプのかばんのどちらかを選択できるようにする。



折りたたみ式ヘルメット

防災ヘルメット

県内でも折りたたみヘルメットの導入が進んでいる。新年度予算に購入費を要望していきたいと考えている。小・中学校で1000個くらいになり、防災訓練等で活用していきたい。



トランペット鼓隊演奏者



トランペット鼓隊指揮者

放課後教育活動補助金

土庄小学校のトランペット鼓隊の冬服の購入を考えている。一部負担金の了承ももらっていることもあり、出初式での演奏までに揃えたいとのことである。

特別支援学校について

県は、今年度内に特別支援学校の基本計画をまとめたいと考えており、計画の中に場所を明示しなければいけないとのこと、決定ではないが現在の池田小学校周辺で打診があった。

教育委員会として、検討協議会を開催した結果、県と保護者が求めている「小学校又は中学校との併設ができる場所」、「病院に近い」という条件は子どもたちにとって最も重要であると考え、池田小学校周辺より有効な適地は、町内には見出しにくいとの結果であった。最終的な場所は香川県が決めることになる。

《高橋》池田小学校に空き地があるのか。

《答》池田小学校のグラウンドは他の小学校のグラウンドより1.5倍程度あるらしく、グラウンドの一角も候補地の1つようである。

総務建設常任委員会

(11/13)

建設課

景観条例等の改正

再生可能エネルギーの利用促進と町の良好な景観形成との整合を図ることを目的として、新たに一定規模以上の太陽光発電設備等を届出対象行為の「工作物」に加えるため、土庄町景観計画、土庄町景観条例、同条例施行規則を改正する。

《福本》届出対象に太陽光発電設備等を追加するのは、香川県内で初めてか。

《答》初めてである。
《福本》町民の常識になるようなマナー、ルール、位置付けがこの条例の中で示されていくことが必要であると思う。

沖之島架橋

ルート別の概算事業費について、3ルート、5案で、事業費は約13億から約37億になるとの説明があった。

《濱中》ルート・形状について地元の見解はどうか。

《答》橋の通行は、車で行き来したい。南側に架ける場合、漁協との話で下を通って南側の漁場へ小舟で出たいという要望がある。

《佐々木》町もお金が多くなる時期である。支払いのことも考えつつ、地域が大事なので、十分に協議して欲しい。

《答》事業費も高く、早急に事業化していくよりは、今後しっかりと研究しなければいけないと考えている。

《岡野》財政状況は厳しいと思うが、どこに住んでいても同じような行政サービスが受けられるような町づくりを進めるために、時間はかかると思うが、前向きに審議していただきたい。

農林水産課

大鐮畑地かんがい管理委員会使途不明金

元職員の親族と話し合いを行い、10月末に全額返金することと、全

額返金があった。

《佐々木》今後、体制の見直しをしなければ、またこういうことが起こる可能性があるのと考えてほしい。

次世代産業界育成モデル事業

「次世代栽培システム実証・研究」事業の拠点施設となる「土庄町植物栽培システム研究所」の施設整備が完了予定である。理化学研究所和田先生によるセミナー、開所式、住民への一般公開を行う。

総務課 公共施設の電力供給会社の変更

県下の地方公共団体において新電力への一部切り替えなどが活発化しており、町においても一部公共施設の電力供給について入札を実施し、香川電力(株)が落札し、契約した。28年度実績に基づいた試算では、68施設で約1200万円の削減効果を見込んでいる。

《濱中》どついう会社なのか。

《答》高松に本社を置いている会社で、契約実績としては、さぬき市、三木町、香川県、香川県警が契約している。
《濱野》停電や災害が来たときの復旧等は。
《答》電線等は中国電力の設備を使用するため、設備によるものであれば、復旧は今までどおり中国電力になる。



開所式の様子

企画課
包括協定

武庫川女子大学・短期大学部との包括協定締結について、できれば平成29年、年内に正式にできたらと考えている。

《福本》大学との連携協定は、今後どんどん広がっていくのか。

《答》地方創生の総合戦略の中で、大学等との連携の目標を3校としている。

《福本》明確な目的が必要だと思うが。

《答》町の地域振興の目的と学校側の人材育成の目的が合致した。



包括協定締結式

水道課
水道事業廃止に伴う条例改正・廃止

香川県広域水道企業団

の設置においては、総務大臣の許可を得て11月1日に設置された。

今後、町としては条例等の改正・廃止が必要とされ、10個の条例について改正・廃止が必要となる。

商工観光課
地域おこし協力隊起業支援

地域おこし協力隊が任期最終年度または任期終了後1年以内に活動地と同一市町村で起業をする場合、起業に要する経費について一人当たり100万円を上限に補助金が支給できる。豊島で地域おこし協力隊として活動している稲子恵氏が平成30年7月末で任期満了となり、退任後、補助金を活用し、豊島においてゲストハウスを開業予定である。

皇路山園地の遊歩道の修繕

皇路山園地内には、ハイキングコースがあり、普段から登山客がハイキングに訪れている場所である。



皇路山からの風景

ある。現状は遊歩道の一部は路面状況が悪く、このまま放置していれば利用者にとって危険性がある状態であり、修繕計画を立て、修繕する。

修繕方法は、国立公園第二種特別地域ということとでかなり制限がある中、基本的には不陸整正という方法で、土を入れて重機で踏み固めるという方法で行う。

庁舎問題調査特別委員会
(9/28、11/27、1/9)

《9月28日開催》

職員による庁内検討部会、各種団体などから組織する庁舎建設検討審議会において検討してきた

《11月27日開催》

庁舎建設候補地の検討について、庁内検討部会を2回、庁舎建設検討審議会を4回開催した。その経過の説明を受けた。審議会は、土庄中央病院跡地を候補地とし、町長に答申を提出した。

《福本》審議会の委員に庁舎建設に関わってくる業者の方はいるか。

《答》建設業・建築業の第一線は退いているが、役員の方はいる。

《福本》配慮が必要ではないか。

《答》今回の審議会で、庁舎の建設候補地の選定について審議した。建設・建築までは審議していない。

《岡本》町は、病院跡地で動くことになるのか。

《答》審議会は、第3者委員会や有識者会議に当たり、町長が建設候補地等の検討をお願いし、その答えを答申というかたちでいただいた。

《答》病院跡地で、病院の新館の利用を考えた場合、病院新館は平成7・8年に建てており、仮に平成32年に庁舎が建つとその時点で20年以上の差がある。先に病院新館部分の耐用年数がくることから建替えを考えなければいけないので、その費用を試算している。

《濱中》病院跡地の敷地面積で建築面積・駐車場は対応可能か。

《答》病院跡地はかなりの面積がある。やすらぎプラザと図書館の間にも駐車場があり、愛の園保育所も統合され空くので、スペースは十分ある。

《1月9日開催》

過去2回の審議を踏まえ、審議した結果、今後協議・確認すべき事項はあるが、土庄中央病院跡地を建設候補地として了承することとした。

議員の会議等出席状況(平成29年10月19日～平成30年1月9日)

月 日	会 議 等	岡野	岡本	濱野	高橋	木場	母倉	福本	濱中	山崎	川本	佐々木	井上
10月19日	決算特別委員会	○	○	○	○	—	○	—	—	○	—	—	○
10月20日	小豆郡町議会議長会研修	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
10月23日	決算特別委員会	○	○	○	○	—	○	—	—	○	—	—	○
10月26日	決算特別委員会	○	○	×	○	—	○	—	—	○	—	—	○
11月13日	総務建設常任委員会	○	—	○	—	—	○	○	○	—	—	○	議
11月13日	教育民生常任委員会	—	○	—	○	○	—	—	—	○	○	—	○
11月24日	議会運営委員会	—	—	○	—	—	○	○	—	○	○	○	議
//	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11月27日	庁舎問題調査特別委員会	—	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○	○
11月30日	平成29年第3回香川県後期高齢者医療広域連合議会臨時会	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
12月1日	12月定例会本会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12月4日	12月定例会本会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12月7日	小豆地区広域行政事務組合議会12月定例会	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
1月9日	庁舎問題調査特別委員会	—	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○	○
//	議会広報特別委員会	○	○	○	○	—	—	○	—	—	—	○	○

○：出席 ×：欠席 —：出席不要 議：議長の職務出席
 ※議長、副議長のみ出席の会議等は省略しています

質問議員	質問事項
母倉正人	○財政見通しを踏まえた町政運営の中期展望は ○地方創生の土庄版、いわば「地域創生」の考えを、町の施策の基本に据えるべき
岡野能之	○ヘルプカード・ヘルプマークの導入
福本耕太	○住宅リフォーム助成制度について ○イノシシ対策の強化を ○重度心身障害者の医療費の窓口無料化
濱中幸三	○特別支援学校の誘致
木場隆司	○土庄町創生人口ビジョンについて
濱野良一	○商工観光課のあり方 ○町広報の配布について

ここが聞きたい



12月定例会では、6人の議員が一般質問を行いました。
 全文記録(会議録)は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

議員が町政を問う

▶土庄町ホームページ
<http://www.tonosho.kagawa.jp>



母倉正人 議員

財政見通しを踏まえた町政運営の中期展望は（4年間の総括と展望は？）

母倉 三枝町長が就任して4年になる。この間に実施した諸施策をどう総括しているか。また具体策も含め、今後の施策展開をどう考えているか。さらに基盤である財政見通しを踏まえた町政運営全般の中期展望について、町長の所信を披瀝されたい。



小豆島中央病院

町長 就任以来安心、安全、安定なまちづくりを目指し、町民、議会との対話を大切にしながら全力で取り組んできた。皆様のご理解、ご協力に深く感謝申し上げます。

新規取り組みの事業のうち、地域地場産業の活性化として、「次世代産業モデル育成事業」を推進。特産品開発として取り組んだ「小豆島島鱧」は、地域を代表するブランドになった。

観光、スポーツ振興では、著名なコシノジュンコ氏による作品や連携イベントの誘致、パワーボートレースの実施、どこでカポチャ大会、プロバスケットボールリーグ公式戦の町内誘致を実現。

子育て、教育分野では、エンジェル祝いの充実、15歳までの医療費無料化、教育環境の整備等を推進。暮らし、安全の分野では、小豆島中央病院の開設等、地域医療を守る体制づくりを進め、路線バスの料金改定と新ダイヤ編成による公共交通の利便性向上を図った。域外

ヘルプカード、ヘルプマークの導入



岡野能之 議員

ヘルプカード、ヘルプマークの導入

岡野 ヘルプカードとは、障がいのある方が携帯し、災害時や外出時、日常生活の中で支援が必要になったとき、周囲の人に提示し、手助けをお願いするためのカードである。

このカードには、本人が手助けしてほしいことを記入する。手助けが必要な人の中には、困っていても周囲の人に伝えることができない方や周囲の人も「手助けを必要としているのか」「どう手助けをしていいのかわからない」と判断に迷う方もいる。ヘルプカードを提示することで、速やかな手助けを受けることができ、手助けを受ける人、する人、お互いに助け合う環

境づくりに繋がると思う。

ヘルプマークは人工関節や義足、難病、さらに妊娠初期など外見では分からないが援助や配慮を必要としている人々が携帯し、外出時の緊急時や災害時に周囲の人に必要なた支援を受けやすくするためのマークである。

2011年3月の東日本大震災での教訓を踏まえて、東京都ではヘルプカードの標準様式を定め、また、かばん等に付けられるストラップ型タイプのヘルプマークを作成し、配布している。

東京都以外にも作成する自治体は全国に広がっており、香川県内においては、三木町が作成している。

国は、ヘルプマークを案内用図記号に規定する国内規格に本年7月から追加する方針を発表している。

このようなことを踏まえて、町ではどのように対応していくのか。

福祉課長 内部障害や難病の患者、精神障害、知的障害または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見では分からない方々が、周りに配慮が必要なることを知らせることで、援助を得やすくなるように、これまでも、見えない障害バッジやマーク、助けてカードなどの様々な取り組みが行われてきた。

町としても、援助や配慮が必要な方とそれができる方を結ぶための、有効な手段になるものと考えており、早期の導入に向けて検討する予定である。

また、導入後には一人ひとりが利用しやすくなりやすいものとなるよう普及啓発にも努めていきたいと考えている。

岡野 導入後のことも検討されているようなので、前向きに進めてほしい。誰でも安心して外出できるよう、ぜひともヘルプカード、ヘルプマークの導入を進めてほしいと思う。



ヘルプマーク

岡野 導入後のことも検討されているようなので、前向きに進めてほしい。誰でも安心して外出できるよう、ぜひともヘルプカード、ヘルプマークの導入を進めてほしいと思う。

福祉課長 既に導入している三木町の担当から、できるだけ全ての自治体で使うことで認知度をあげていこうと提案をもらっている。町としても導入後には、他の導入していない市町にも声をかけて動きもしていきたいと考えており、公共交通機関等にもシールの掲載等をお願いをしつつ、進めていきたいと考えている。



大部沖で開催されたパワーボートレース

との協働と連携による活性化を目指して京都産業大学と連携。武庫川女子大学との連携も進める。

財政運営では、小学校、病院、消防庁舎等の整備に伴う公債費の増加に加え、今後も、こども園、ごみ・し尿処理施設などの事業があり、厳しい状況が続く。自主財源の確保、国、県交付金の活用、業務の効率化により、持続可能な財政運営を行う。

誰もが安心、安全に暮らせる住みよいまちづくりのために、全ての町民が活躍できるように社会の実現に向けて、今後とも町政運営の先頭に立って全力でがんばりたい。

地方創生の土庄版、いわば「地域創生」の考えを、町の施策の基本に据えるべき

母倉 町内の各界、特に「各地域」の個性を活かし、町と住民が知恵と力を活かし合いながら地域の活力を創り出していくことが、町全体の繁栄を創り出す。こうした考えに立った施策を実現すべきと思うがどうか。

企画課長 地域の個性を活かした施策立案に取り組みたい。

母倉 1点目については、不断の点検補強を怠らず、具体的な実を結ぶべく邁進されることを期待する。2点目については、それぞれの地域に活力を生み出すことを町政の基本に据えて、住民とともに地域振興に強力に取り組んでほしい。

住宅リフォーム助成制度は「耐震」と切り離し単独で利用できる制度に

福本 住宅リフォーム助成制度を実施している県内の3市3町を項目ごとに比較した。まず制度の自身で比較すると「耐震」と一体でなければ、制度が利用できない自治体は、県内で土庄町だけである。次に、制度を実施した約1年後に、地域経済に及ぼした影響で比較すると、経済効果がマイナスで、経済波及効果がゼロだったのは土庄町だけであった。それに対し、土庄町を除くすべての自治体で大きな経済効果が生まれていた。例えば小豆島町では、総額1億1900万円の経済効果（仕事）が生まれており、波及効果は予算額の9.15倍であった。他の自治

体同様に、単独で利用できるようにすれば地域経済の活性化に繋がり、実績も出る。来年から実施すべきである。

建設課長 実績が出ていないのは広報、周知不足と考えている。

町長 建築業者に声をかけし、広報活動してもらえば変わると考えている。

福本 ひどい答弁だ。小豆島町では制度実施直後に応募が殺到し、補正予算まで組んだ。住民や業者から「土庄の制度は、使い勝手が悪い。使えない」と声があがっている。広報、周知の問題でないことは明らかだ。来年度は、まともな制度と予算にすることを強く求める。

イノシシ対策の強化を

福本 有害鳥獣の中でも特にイノシシは、人を襲う固有の危険があり、絶対数を減らすことが最も重要だ。具体的に、イノシシ捕獲を行う住民が、後継者の問題を含め継続できる体制を行政が維持

していくことが重要だ。しかし、現在捕獲を行っている住民から「経費が収入を上回り継続が困難になっている」と声があがっている。そこで、小豆島町同様に町独自予算を設け、免許更新料の助成と捕獲奨励補助の増額をするべきだ。

農林水産課長 狩猟免許の更新の補助は銃のことだが、警察への申請手数料など、いろいろな費用がかかる。しかし、他の8市8町に確認したところ、小豆島町以外は免許更新料の補助を行っていない。

福本 小豆島は四方を海に囲まれている。2町が高い基準で揃えてこそ、短期間に大きな成果を出すことができる。捕獲奨励の助成増額についてはどうか。

農林水産課長 小豆地区猟友会から、2町が同じにならないかと要望を受けている。現在小豆島町と協議を進めている。

福本 是非、前向きに検討を進めていただきたい。

重度心身障害者の医療費無料化制度を立替払いから窓口無料化へ

福本 県内の自治体8市9町のうち、重度心身障害者の無料化制度が立替払いになっている自治体は、小豆島の2町だけである。小豆島町とも協議し、一刻も早く窓口無料化になるよう2町で協議してほしい。

福祉課長 小豆郡内の医療機関で受診した場合の現物給付（窓口無料化）が進んでいない要因の1つは土庄町と小豆島町での助成対象の範囲が違っており、2町間の協議が行われてこなかったためである。町としては現物給付化の可能性を検討していく。

福本 2町が同時に進めることが難しい場合、土庄町単独で実施することも視野に進めてほしい。



濱中幸三 議員

特別支援学校の誘致

濱中 小豆島に開校計画がある県立の特別支援学校を土庄町内に誘致できないか。

私は、6月議会の一般質問で、県立の特別支援学校を、土庄高校跡地、中央病院跡地など、町の中心部に誘致してほしいと申し入れた。これに対し、町長は、土庄町に設置するようお願いしていると回答した。

また、9月議会においても、病院も高校も小豆島町に持っていかれたので、同じ轍を踏まないように土庄町へ誘致するように表明することをお願いした。これに対し、担当課長からは、慎重に対応するという考えであると回答があった。この回答に、私はまた「同じようにやられるな」と感じた

ので、用地を特定して県に積極的に働きかけるよう提言した。

しかし、土庄町特別支援学校設置検討協議会の審議結果についての報告書では、特別支援学校の設置場所について、「結論としては池田小学校を最適地とすることはやむを得ないとの結果で全員了承した。」とあった。

私はこれを聞いて、怒りで胸が震えた。「またやられた」。土庄町の審議会でなぜ小豆島町の候補地が最適地になるのか。教育長の責任は重大である。進退をかけて、全ての町民が納得できる説明をしなければならぬ。私は、病院、高校の轍を踏まないように用地を提示して、速やかに交渉に臨むようお願いしたはずである。

次の質問について具体的に回答を求めます。

- 1 今から町民プール等、土庄町内の適当な場所を提示して県と交渉できるのか。
- 2 小豆郡の中心地は、福田から豊島までを考え



木場隆司 議員

土庄町創生人口ビジョン

木場 町の人口が、戦後の2万9千人をピークに減少傾向にある。2010年では約1万5千人まで減少している。現状のまま何ら対策を講じなかった場合、2060年に町の人口は、5275人程度まで減少すると推測され、経済規模の縮小、社会保障費の増加、ひいては地域社会の衰退等が懸念される。

今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望として、

- 1 社会動態を増加傾向へ転換 ↓ 産業育成等による雇用の創出、移住、定住促進など
- 2 自然動態の減少傾向を抑制 ↓ 安心して出産、子育てができる環境づくりなど
- 3 人口減少社会に適應

する ↓ 行政サービスの充実、官民協働による地域活動促進、地域間連携の強化など

こうした取り組みにより、出生率が上昇するとともに、若者を中心とした社会動態の増加を図ることにより、2060年に10749人になると推計されるとあるが、土庄町創生総合戦略5か年のうち3年が経過しようとしているが順調に進捗しているのか問う。

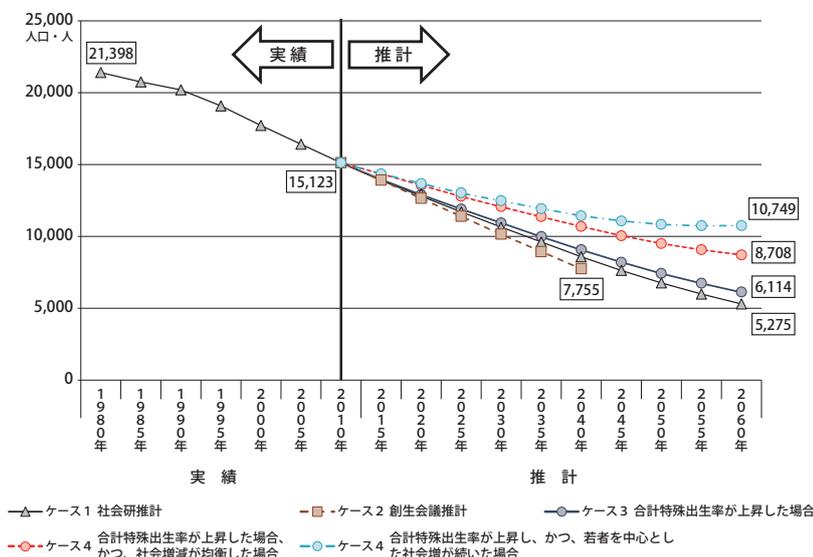
人口異動調査では、転入者数、転出者数については、目標値に届かない状況である。

そもそも地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、社会全体を活気あるものにしていくことを目的としているが、地方創生の開始から3年たった今も、地方からの人口流出に未だ歯止

めをかけられていない状況と言われている。総合戦略に基づく町の施策を実施していきたいので協力をお願いしたい。

木場 町の賑わいというのは、人が中心であり、人口減少の抑制対策が重要であるので、ビジョンに基づいて順調な事業の遂行を願う。

人口の推移と長期的な見通し



ると、時間距離にすれば土庄本町あたりと思うが、なぜ池田小学校と判断したのか。

教育総務課長 10月末に県から町教育委員会に対し、池田小学校を有力候補地の1つに考えているとの打診があった。教育委員会としては、教育関係者で協議会を設置し、打診された候補地について協議を行った。その結果、町内の候補地の中に、県・保護者が求めている「小、中学校に併設」「病院に近い」などの条件では池田小学校より有効な候補地は見出しにくいと町の教育関係者の意見として、県へ報告した。

その後再度、県から町内の候補地も含めて町の方針を示してほしいとの相談があった。町としても庁内会議等を開き、候補地の選定を検討することとしている。

また、池田小学校を候補地の1つとしたのは県であり、その選定の詳しい理由を町は把握していない。

ない。

濱中 今回も担当課長の答弁は、ぜひ土庄町へ誘致したいという熱意が全く感じられない。病院も高校も小豆島町であるので、特別支援学校は土庄町へと考えるのが普通であるし、町民の思いであると思う。町長、教育長は、県教委若しくは県へのくらの頻度でお願いに行ったのか。

町長 11月に県教委が来たときに、町内の7か所の候補地について提案し、検討するようお願いした。

教育長 県立学校なので、子どもたちの教育を前提に、わかりやすい形での決定をお願いしている。

濱中 6月以降に県へ再度お願いに行ったのかを尋ねた。たぶん行っていないということか。これでは町の熱意は伝わらない。何回も何回も行ってもらいたかった。

商工観光課のあり方

濱野 商工観光課は、工業の振興、観光の振興、中小企業の融資とふるさと特産品の振興、まちおこし事業と各種イベントの運営を基本方針としているが、瀬戸内国際芸術祭等の観光に対する比重が大きいのではないかと。

土庄町は観光立町であるとして、観光を通して町が活性化してきたのは事実だが、併せて地元での経済活動が観光を支えている。基本業務である商工と観光に関する政策提言や施策の運営を応分に果たすために、新しい枠組みで取り組む等、多様な考え方があがるが、今一度商工観光課の役割を見直して、本来の目的に沿った活動ができるようにするべきだと考えるが。



濱野良一 議員

企画課長 現在、役場の組織は、14の課により町政運営を行っている。以前から業務内容、また人員に合わせた課の再編を繰り返して、業務の効率化を図ってきた。商工観光課は、商工業の振興と観光業の振興が業務の大きな柱であり、観光立町を謳う町として、観光行政に力を入れている。商工観光課のみならず、本町の財政状況や業務の負担を考慮しながら、限られた職員をバランスよく配置することに努め、合わせて今の施行体制がベストなのかも含めて、今後の在り方について全庁的な視点で検討したい。

町長 商工と観光を分けるのは厳しいが、課の中で役割等を検討しながら、両方がうまくいき、観光と商工が互いに寄与するよう努めたい。

濱野 商工観光課を捉えているが、組織の見直し、また事業の見直しを考えると一つのきっかけとしてほしい。

町広報誌の配布について

濱野 進学率が上がり、島外への進学等が非常に増えている。ホームページを開けば、町広報を見られるが、送付して、手に取って読んでもらうことで、故郷への思いを新たにし、問題や課題も理解してもらい、帰郷への思いにつながる。

さらに、島外からの支援や提言など、新しい発想が生まれる。配布先の選定や個人情報の問題、送付する期限等課題はあるが、これからの世代へのアプローチとして島外の若者へ送付することを検討してみてもどうか。



町広報誌と成人式で実施したアンケート

企画課長 「広報とのしよ」は、行政の情報や町の出来事などをお知らせし、町の取り組みを理解してもらうための媒体として、重要な役割を担っている。ホームページの「広報とのしよ」へは、平成28年度9091件のページ訪問数があったが、実際に手に取って読んでもらうことが最も有効である。昨年度の土庄高校卒業生は84.7%という高い進学率で、町としても島外に進学した学生等が故郷への思いを持ち続け、将来的に町の発展に貢献していただくよう発信することは、とても有意義なことと考える。広報誌の送付について、対象者へのアンケート調査などを通じて状況把握を行い、配布期限や方法等を検討していきたいと考えている。参考までに、現在町外の個人で広報の定期的な送付を希望している方は11名おり、送付料は事前に12か月分で900円の切手をいただいている。

まちの
元気印

土庄町立中央図書館友の会



活動風景（左側が代表の諸石さん）

また、図書館建設委員に、会から2名選出いただいたので、良い図書館になるよう要望を出し、平成15年に現在の図書館が完成しました。

その後、図書館と連携し、「できることを できる人が できる時間に楽しくやろう」と活動しています。

Q メンバーは何人いますか。

A 登録メンバーは約80名で、中心で活動しているのは約20名です。

Q 主にどのような活動をされていますか。

A 図書館をはじめ、子育て支援センター、保育所、幼稚園、小学校、老人ホームなどで読み聞かせを行っています。年間約180回実施しています。「要望があればどこにでも」という姿勢で行っています。

また、図書館に来る人を増やしたい、習慣づけたいと思います、としゃかん

こども祭り、古本市、科
学体験教室、英語教室、
雅楽やチェロの演奏会、
落語など様々な行事を開
催しています。

Q 活動を通して感じることは。

A 活動を続けていきたいのですが、中心となるメンバーの高齢化が気になります。

次の世代にこの活動を繋いでいかなければならないと思っています。

Q 活動で苦労されている点は。

A 運営資金は、県の補助金や基金、会員の会費、古本市での売上金と限られており、好評だった行事を継続しているため、活動は増えているが、運営資金の面で苦労しています。

講師や出演者のほとんどは、ボランティアでお願いし、快く引き受けてくれるおかげで行事が成り立っています。

Q 今後の目標や力を入れていきたいことはありますか。

A 最近では、多くの人が本を読まなくなったので何とか読んでもらうよう読書の習慣をつける動きや仕掛けを考えています。大人も子どもも図書館へ来てもらえる機会を増やし、人と本を繋ぐ活動を、会員でアイデアを出し合いながら行っていきたいと思っています。

Q 町や議会に対する要望はありますか。

A 四国の町立図書館の中では、施設規模、利用率がトップクラスのすばらしい施設であるので、ぜひたくさんの方に土庄町立中央図書館を利用していただけるよう促して



活動風景（人形劇）

欲しいです。

図書館へ人を呼び、本を読むきっかけづくりのため、工夫を凝らした行事を行う皆さんの活動のおかげで、住民にとって親しみやすい図書館になっていると感じました。

これからも皆さんの活動で、このすばらしい施設を有効に活用していただき、たくさんの方が本とふれあえる機会を作ってください。

編集後記

本年も1か月が経ち、まだまだ寒い日が続きますが、新芽が芽吹き出す季節に近づき、子どもたちは新しい学年、学校に、青年たちは新たな職場に、それぞれ不安な心を持ちながら勇気を振り絞り、一歩一歩前進することでしょう。

そんな青少年たち一人ひとりを応援し、また住民の痛みが分かる、真面目に頑張っている人たちが困らない、そんな良き町にできるよう町長、執行部として協力し、議員一丸となって一生懸命活動してまいります。

議会だよりにおきましては、皆さまに分かりやすい誌面づくりとの思いで臨んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

《岡本経治 記》



野間読書推進賞奨励賞の賞状と賞牌

議会の
生の声
を聞いて
みませんか?

次回定例会は
3月初旬から
の予定です

詳しくは
議会事務局へ **☎62-7011**

議会日程は町ホームページでもお知らせしています